広報伊方町

発行所
愛媛県西宇和郡
伊方町
編集
町長公室
印刷所
尾上印刷所
八幡浜市天神通
電話 ④0091番

ミカン農家
摘果作業たけなわ
価格安定＝まず生産調整で

残暑の日ざしをからだいっぱいに浴びて、いまミカン農家のみなさんは摘果作業たけなわです。

今年のミカンは表年にあたり、史上空前の大豊作が見込まれており全国の生産予想数量は四百万トン台が確実視されております。

（愛媛県全体では約七十万トン）

我が伊方町もミカンの一大産地としてその名声を高めていますが、今年産二万三千トンを見込んでいます。

価格アップに望みをかけてきようもミカンの摘果に一生懸命です

このままでは、四十七、四十八年と二年続きの暴落ですっかり元気をなくしているミカン農家に、さらに〝価格暴落〟の荒波が押し寄せてこようとしています。

そこで、価格安定策の一環として、全国ミカン生産県か一丸となって、今年新らしく押し進めているのが「生産調整」です。

伊方町農協、町見農協ともこれにならい町内のミカン農家に二十%の自主調整を指導し、摘果の推進をはかっており、今年こそ良質のミカンを生産し、ミカン価格アップに大きな望みと期待をかけています。

こんご、京浜市場を中心として全国各市場での産地間の販路拡大と販売合戦はよりいっそう激烈さを加わえるものと思われます。

これからの産地間競争に勝ち残れる産地になるためには、生産原価を下まわらない商品価値の高いミカンづくりをめざすことが第一です。

それには、まずミカン農家とその指導機関である農協とがしっかりとスクラムを組む必要が何より大切です。

こうした激動するミカン産業を乗りきるためには生産調整、摘果推進とあわせて、こんご新品種の開拓、品種更新等により多様化する消費動向をしっかりとつかむ必要があります。

二年連続の価格低下の反面、石油危機に端をはっした諸物価の値上がりで、農薬、肥料等の生産資材の高騰は、農家に〝やる気〟をなくす原因ともなり、一躍現金収入になる出かせぎ、日雇として働き、農作業はおろそかになりがちであり、まさにミカン農家の危機です。

しかし、土に生き、ミカンづくりに生きるミカン農家は、持ち前の農民魂である〝ねばり〟でこの危機を突破しなくてはなりません。

〝危機突破〟できるはずです。

全ミカン農家の根性で……

町見中にプール
長さ25メートル　6コース

第七十七回 定例会

一般会計 十億九千九百万円に

伊方町議会第七十七回定例会は七月二十二日招集され、昭和四十九年度一般会計補正予算など十六議案を上程。慎重に審議の結果、原案どおり可決いたしました。

そこで、今回補正された昭和四十九年度一般会計予算（第二号）のあらましをみてみましょう。

＝補正された予算から＝

こんど補正計上された一般会計補正予算は一億三千四百四十七万円で当初予算と合算しますと予算総額十億九千八百八十六万円となり、昨年同期と比較した場合三億一千三百十七万円の増となりました。補正されたもののなかには、町見中学校のプール建設のほか、総延長約二千メートルにおよぶ町道舗装、豊之浦臨港線新設などが、特に目につきます。

新設は継続事業で五年目にあたり、ことしの場合約四百メートル（幅員三・五メートル）新設されます。

仁田之浜畑地総合整備事業二千九百三十万円追加され三千八百六十万円になりました。（排水路等の整備）

中之浜樹園地農道改修は六百万円プラスされ一千五百万円となり四百六十メートル改修されます。

豊之浦農道新設一千百九十六万円。豊之浦の海岸線までの間百八十一メートル新設されます。（幅員は四・五メートルです）

◎土木費

豊之浦臨港線新設工事一千五百万円。ことしの場合、幅員五・〇メートル道路を六十五メートル新設します。

亀浦中道線新設工事二百八十八万円。延長約七十三メートル（幅員三・〇メートル）新設します。

川永田豊之浦線舗工事二百四十万円。延長三百五十メートル舗装

河内上大浜峯線舗装工事三百万円。延長六百五十メートル舗装。

伊方越臨港線舗装工事四百万円延長四百七十四メートル舗装

二見大松線舗装工事三百万円延長四百七十メートル舗装

町では毎年、生活圏道路を主体に町道の舗装を行なってまいりましたが、本年も四線の町道が舗装道路になります。

今回補正された四線の町道舗装は総工事費一千二百四十万円を投入し延長約二千メートル、面積にして約八千平方メートル簡易舗装されます。

大浜がけくずれ防災対策工事百八十三万円。

町道の簡易舗装に
1,240万円
総延長　1,944メートル
面積7,939平方メートル

◎消防費

川永田地区送水施設二百九十一万円。

総延長六百メートル送水施設を布設し、万一の火災に備えます。

川永田地区
送水施設
延長 600メートル

◎教育費

町見中学校プール建設二千八百四十三万円。

町見中学校プール設計監理費百七十万円。

町見中学校に長さ二十五メートルプールとその横に補助プールが体育館前に建設されます。

二十五メートルプールは六コースをセットできます。また、男子用更衣室、女子用更衣室の施設を有しており、これで町内の中学校二校ともに二十五メートルプールを完備することになったわけです。

町見中学校にプール
建設　2,843万円

現在の小中学校児童、生徒たちの中で〝泳げる〟と合格点をもらえる子どもは少ないとか。

プールができても、泳げない生徒が多いのでは困ります。

プールを利用して全員が泳げるようにしたいものです。

◎民生費

下水排水路改良
延長260メートル

湊浦二道路改良工事八十八万円

二百五十メートル改良施工されます。

向下水排水路改良工事八十二万円（延長百八十二メートル）

川永田二下水排水路改良工事四十五万円（改良四十七メートル）

湊浦二下水排水路改良工事五十万円（改良延長二十八メートル）

「陽だまりの部屋」設備備品購入八十六万円。

カラーテレビ、椅子式あんま機、石油ストーブ、水屋、茶器、黒板、座ぶとんを老人の施設へ設置するため購入します。

◎衛生費

ごみ処理場焼却炉修理百三十一万円。

簡易下水道整備二百七十三万円

◎農林水産業費

仁田之浜農道新設に五百七十万円プラスされ一千二百二十万円になりました。この仁田之浜農道の

(お)(茶)(の)(間)(懇)(談)(会)
みんなの力で 問題解決を

身のまわり行政について熱心に意見交換がなされました

県主催のお茶の間懇談会が七月二十五日湊浦公民館で同地区の人たち八十人が出席して行なわれました。

このお茶の間懇談会には、県より八幡浜県事務所、土木事務所、保健所、教育事務所、農業改良普及所等の関係者をはじめ、町からは町長のほか各課長が列席しました。

この懇談会は、一般の方々が日常生活の中で困っている問題、県、町に対する苦情や要望事項等、住民の声を直接聞くとともに、それを行政の立場で反映していくため県が開催しているものです。

当日は県、町に対する要望、意見が活発にだされました。

自治体がこうした懇談会の席上だされた問題点、要望項目ですぐやれるものはすぐに処理し、問題解決に時間を用するものは前向きの姿勢で最善の努力をはらい問題解決にあたってこそ、この懇談会が意義深いものになるものと思います。

これにはやはり、自治体の努力もさることながら、身のまわり行政の中で一般の方々も〝自分たちでやれることは自分たちでやる〟という協力体制が必要なことはもちろんです。

私たちの住む町は、やはり私たちの手で、住みよい街づくり、地域づくりにつとめなくてはいけません。

48年度水道会計の決算

町民の暮しにとどける 水水水……

苦しい経営のりこえて

昭和四十八年度水道会計の決算ができました。これをみますと四十七年についで二年連続の赤字決算となりました。

水不足もさることながら金不足も深刻です。

そこで、こうした経営状況を克服するため四十三年以来据置かれていました水道料金改正がなされました。（チラシで紹介済）

四十八年度の決算ができましたこの機会に水道会計について少し内容をくだいてみなさんに紹介します。

水道事業の認識を深めたるために役立ててほしいと思います。

〔表1〕収益的収支

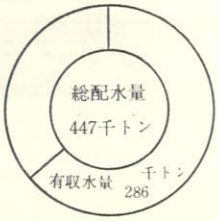
（収入）	
給水収益	1,188万円
その他収益	86
営業外収益	365
計	1,639万円
（支出）	
原水及び浄水費	257万円
配水及び給水費	167
総係費	822
償却費など	264
営業外費用	365
計	1,875万円
差引	236万円の赤字

〔表2〕資本的収支

（収入）	
出資金	86万円
固定資産売却費	3
計	89万円
（支出）	
建設改良費	181万円
企業債償還金	169
計	349万円
差引	260万円の赤字

〔図1〕水道の普及率73.4パーセント

〔図2〕36パーセントも水もれしたことになる



〔図3〕原価よりも24円02銭も安い料金

〔図4〕借金は 5,495万円

水道管の延長32キロ　〔図5〕

シャワーを浴びるよい子たち

水道会計の昭和四十八年度決算をみますと、まず〔表1〕「収益的収支」では、収入が一千六百三十九万円、支出が一千八百七十五万円で二百三十六万円の赤字になっています。

また、「資本的収支」でも、収入が八十九万円、支出が三百四十九万円で二百六十万円の赤字になっています。

このように、収益的収支でも資本的収支でも赤字決算が四十七年度から二年連続つづきました。

そこで、四十九年度より暫定的な料金改定を行ないました。

しかし、改定後の電力料金の値上げ、さらに人件費の大幅アップ等により、こんごの経営見通しも決して安心できない状態にあります。

しめる営業収入

収益的収支〔表1〕の内容を説明しますと、まず、収入の「給水収益」は、給水家庭からとどけられた水道料金の全額です。

「その他の収益」は、新しく加入された家庭の水道新設料金や、その家庭に設備した工事の検査手数料及び消火栓の維持管理として一般会計から受入れた額などの合計です。

「営業外収益」は一般会計からの補助金三百六十五万円です。

ほとんど維持費

支出〔表1〕の「原水及び浄水費」は、動力費二百五十万円がおもなもので九十七%をしめています。

このなかには薬品代等も含まれています。

「配水及び給水費」は、水道管の維持費で、ほとんどが修繕費で約九十%にあたる数値をしめています。

「総係費」は、全般的な事業費です。「営業外費用」は、借金の利子三百六十五万円です。

資本的収支〔表2〕では、四十八年度は大きな工事がなかった関係上、企業債はなく収入の「出資金」八十六万円は、一般会計からの補助金です。

支出の「建設改良費」は二見地区の水源が枯渇して、さらに水源を探すための工事費、九町地区簡易水道が毎年夏になると水不足になるので、ポンプ二台を同時に動かすための電気設備の工事費等です。

「企業債償還金」は借金の返済金です。

九町簡水に同時運転施設

普及率は七十三パーセント

運営の状況では、四十九年三月三十一日現在の給水人口は六千六百十七人です。町民全体との割合は七十三%です。〔図1〕

伊方町の給水人口は昨年より百二十三人のび、普及率も二・九%のびました。

のびる水使用

給水世帯は千八百世帯です。昨年より十四世帯がのびました。

一方、水使用の上昇は年とともに急激な伸びをしめしており、過去五年間をみますと、昭和四十四年を百とした場合、四十八年は百四十九と約一・五倍となっています。家庭を結ぶ水道管の延長〔図5〕は三十二キロメートルです。

鉄道の距離にして八幡浜駅から予讃線下りで宇和島駅付近まで、上りにして長浜駅付近までです。

管の水もれ三十六パーセント

上水道一カ所、簡易水道四カ所の水源から、昨年一年間に送った水の量（総配水量）〔図2〕は、四十四万六千八百十二立方メートル。家庭のメーター器にあらわれた水の量（有収水量）〔図2〕は二十八万五千九百六十立方メートルでした。この差十六万八百五十二立方メートルは、水道管からもれたことになります。

割合にしますと有収水量は六十四%で、三十六%の水がもれたことになります。

しかし、もれた水のなかには火災や消防訓練などに使った量も含まれています。

そして全国的にみても有収水量が七十%を越すところは少なく、伊方町の場合全国的にみるとやや劣っています。

約5,500万円の借金

水道会計に三月三十一日現在で〔図4〕五千四百九十五万円の借金があります。

借り入れ先は大蔵省から四千二百三十一万円、郵政省から一千二百六十四万円となっています。

利子は、年当り六分二厘から七分七厘の条件で、昭和三十五年から四十七年の三月まで十一回にわたり借り入れています。

そして全額返済は昭和七十七年の予定です。

水を大切に

町ではいままで説明しましたように、困難な経営をのりきるいっぽう、水不足を克服してみなさんの家庭に十分な水がとどけられるよう施設面等、種々努力しています。

水は私たちの生活になくてはならぬものです。その水の使用量は文化生活のバロメーターといわれていますが、伊方町においても水の使用量は年々増加しており、水は不足しています。

一滴の水でも大切にしてほしいものです。

蛇口のしめわすれなどのないように、みなさんのご協力を水道課では強く望んでいます。

給水ピンチです

毎年八月になると水の使用量が急に増大して、伊方町の水道はピンチになります。

ことしもいつものように八月に水道の水一立方メートル当たりの売り値〔図3〕は四十一円五十三銭です。計算の方法は、年間有収総給水量を、料金収入で割った数字です。

この結果、原価より安い売り値となっています。

したがって一家庭に一立方メートルの水を使ってから、ふだんの二倍の水を使っています。町では水源も少なく、水道の設備能力にも限度があり、一番需要の多い夏場に限ってはみなさんに満足のゆく給水ができない状態です。

そこで、水使用については無駄のないよう充分気を配って節水をしていただかないと、どうしても断水をしなくてはまにあわないわけです。

金さえ払えば……の時代は過去のことです。お互い一人一人が節水し、各家庭の蛇口からは「シャー」と勢いのよい水が飛びだしてくるようご協力をお願いします。

サアーいまからでも遅くはありません。節水によって清潔な台所を守りましょう。

一立方二十四円の赤字

水道の水一立方メートル当たりの売り値〔図3〕は四十一円五十三銭です。計算の方法は、年間有収総給水量を、料金収入で割った数字です。

この結果、原価より安い売り値となっています。

したがって一家庭に一立方メートルの水を使ってから、ふだんの二倍の水を使っています。町では水源も少なく、水道の設備能力にも限度があり、一番需要の多い夏場に限ってはみなさんに満足のゆく給水ができない状態です。

そこで、水使用については無駄のないよう充分気を配って節水をしていただかないと、どうしても断水をしなくてはまにあわないわけです。

金さえ払えば……の時代は過去のことです。お互い一人一人が節水し、各家庭の蛇口からは「シャー」と勢いのよい水が飛びだしてくるようご協力をお願いします。

サアーいまからでも遅くはありません。節水によって清潔な台所を守りましょう。

原価より安く給水

水道の水の原価〔図3〕は一立方メートル当たり六十五円五十五銭です。

計算の方法は年間有収総水量〔図2〕を、総費用額で割った数字です。

原価となった経費六十五円五十五銭の内訳は、人件費二十三円〇七銭、事務費や修繕費、動力費などに二十円四十八銭、借金の利子に十二円七十八銭、施設の償却費に九円二十二銭となっています。

もの知り辞典

水道会計は企業会計ですから「収益的収支」と「資本的収支」の二本立てで経理しています。

収益的収支は、現在の施設で水道の水を取水地から家庭にとどけるまでの経費（支出）などと、水道料金（収入）などで経理します。

経費には、浄水場や水道管の修理費、資金の償却費、人件費、事務費、借金の利子などがふくまれます。

資本的収支は、資産となるものを経理します。

水道管や浄水場の拡張工事にようした経費（支出）などと、措金や一般会計からの出資金（収入）などで経理します。

伊方小が創立百年

記念式典など計画

遠く群魚（むれな）小学校から、現在の伊方小学校まで1世紀の歴史が流れました。その間、「強く」「正しく」「明るく」の校訓のもと、数多くの学童が巣立って行きました。こんご100年を基盤として、さらに前進です。

伊方小学校がことしで創立百年目にあたります。

同校の前身は明治七年五月、法通寺（中浦）に群魚（むれな）小学校の名前で設置されました。愛媛県教育史をみると、その当時は先生一人、生徒五十一人（男四十四人、女七人）の小さな学校としてスタートしました。

明治二十年四月に伊方尋常小学校と改称。ついで明治二十八年六月には伊方尋常高等小学校となり高等科を併設。

終戦まもない昭和二十二年四月に伊方小学校と改称され現在にいたっているものです。

そこで、同校では一世紀という古い伝統と歴史を記念して、過去をふりかえると同時に、こんごいっそうの発展を期するため、各種の事業が計画されています。

同校では、事業の推進母体となる「伊方小学校創立百年記念事業推進委員会」＝会長上野二三吉PTA会長＝を設け事業計画の実践にあたりますが、その主な記念事業や行事を紹介します。

記念事業として

◎記念式典（十一月）
◎親子音楽会、演芸会の開催
◎記念誌の発行
◎郷土室の資料集収
◎歴代校長写真額の掲載
◎記念碑の造成
◎記念品の進呈

記念行事として

◎親子運動会の実施（九月）
◎写生大会（十月）
◎書写展（一月）

こうした事業の推進にあたっては、委員会内に事務局のほか、六つの部会があり、それぞれ受持ちのお葬式代にと使途はさまざまなようです。

七十歳以上の人は医療費は無料です。

医療費の無料化にともなう必要な経費として年間二千七十八万円予算化しています。

また、寝たきりのおとしよりの場合は、六十五歳以上から六十九歳まで医療費は無料です。

特殊寝台の貸与は、昭和四十五年からはじめており、現在まで（五年間）三十台購入し、無料で貸与しておとしよりによろこばれています。

老人クラブ助成金として九十万円予算計上しています。

これは町内二十四の老人クラブへそれぞれ育成費として予算化しています。

老人会助成に六十四万円。

毎年各老人クラブ単位で盛大に敬老会が行なわれていますが、これの経費にと、おとしより一人当たり五百円（昨年は三百五十円）が助成されます。

愛のテレホン設置

独居老人の家には町で"愛のテレホン"を約八十家庭に設置しました。（昨年）

このテレホン設置は、一人ぐらしのおとしよりの心のよりどころとしてたいへんよろこばれました。

女性が大きくリード

ことしも「お年より番付」をつくってみました。

町内一の長寿は湊浦の三好イセさんが九十七歳（明治九年十月十九日生）で断然トップの横綱です。

三好さんは三年連続、長寿伊方町一です。

男性（東方）の横綱は、豊之浦の中田仙松さんで九十歳です。

番付表は、男子八十四歳、女子八十七歳までに達した四十六人にしましたが、これをみてもらえばわかりますように、高齢者は断然女性優位となっています。

部落別にみますと豊之浦の七人がトップ、ついで湊浦六人、川永田四人、河内四人とつづいており、この四部落で約半数近くの二十一人にもなります。

現在の社会のためにつくされ、はげまれてきたこうしたおとしよりがこんども健康に気をつけられ長生きされることをお祈りします。

（注、三好イセさんは八月二十二日死去されましたが、お年より番付は二十日現在で作製していますので掲載しています。）

米寿（八十八歳）

ことし、かぞえて八十八歳を迎え米寿になられたおじいちゃん、おばあちゃんは、つぎのとおりです。県知事より木盃、町長から赤い座布団とお祝状を記念に贈りまされます）

おめでとうございます。

山本萬一郎（小中浦）
川口　寅吉（二見）
田中　大吉（湊浦）
佐々木サノ（湊浦）
高橋フジエ（田之浦）
古田　夕子（田之浦）
清水　シケ（奥）
小林　ナカ（鳥津）
矢津コレン（大成）
井上　フデ（須賀）

（敬称略）

おとしよりに いたわりとはげましを

ことしも「としよりの日」がやってきた。

九月十五日は、第二十三回目の「としよりの日」です。

十五日から一週間は老人福祉週間です。

この期間中は、まさに"おとしよりサービスデー"で、現世の社会づくりに大きく貢献した、おとしよりに対し、全国各地で数多くの、ねぎらいの行事や慰問などが計画されているようです。

そこで、「老人福祉の向上」がさけばれている時点で、おとしよりのしあわせを願い、どのような施策がほどこされているのか、この機会にみてみました。

八十歳以上のおとしよりに長寿祝金が一人五千円支給されます。

町内で約二百三十人あり、百五十万円予算がくまれています。

この長寿祝金は、おとしよりのみなさんのおこずかいやお孫さんのお年玉にと使途はさまざまなようです。

七十歳以上の人は医療費は無料です。

医療費の無料化にともなう必要な経費として年間二千七十八万円予算化しています。

また、寝たきりのおとしよりの場合は、六十五歳以上から六十九歳まで医療費は無料です。

特殊寝台の貸与は、昭和四十五年からはじめており、現在まで（五年間）三十台購入し、無料で貸与しておとしよりによろこばれています。

老人クラブ助成金として九十万円予算計上しています。

これは町内二十四の老人クラブへそれぞれ育成費として予算化しています。

老人会助成に六十四万円。

毎年各老人クラブ単位で盛大に敬老会が行なわれていますが、これの経費にと、おとしより一人当たり五百円（昨年は三百五十円）が助成されます。

愛のテレホン設置

独居老人の家には町で"愛のテレホン"を約八十家庭に設置しました。（昨年）

このテレホン設置は、一人ぐらしのおとしよりの心のよりどころとしてたいへんよろこばれました。

九月十五日「敬老の日」十五日から「老人福祉週間」

いつまでもお元気で お年より番付

勧進元　伊方町
（昭和49年8月20日現在）

東方（男）				西方（女）			
位置	氏名	年齢	住所	位置	氏名	年齢	住所
横綱	中田仙松	90歳	豊之浦	横綱	三好イセ	97歳	湊浦
大関	岩井鹿市	88	小中浦	大関	二宮ゲン	93	河内
関脇	河野助右エ門	87	豊之浦	関脇	菊池モセ	92	川永田
小結	足利時繁	87	中浦	小結	岡田ヤツ	91	川永田
前頭	山本萬一郎	87	小中浦	前頭	新口ナカ	91	大浜
〃2	川口寅吉	87	二見	〃2	山口イセノ	91	河内
〃3	田中大吉	87	湊浦	〃3	井上ミナ	91	奥
〃4	浜野喜惣治	86	川永田	〃4	川内イワノ	91	向
〃5	脇田愛之助	86	畑	〃5	神野マサ	91	伊方越
〃6	河野幸之助	86	豊之浦	〃6	田緑モト	91	川永田
〃7	兵頭勇佐	86	湊浦	〃7	山下ヒデ	90	西
〃8	佐々木道太郎	85	湊浦	〃8	高石ハマヨ	90	豊之浦
〃9	浜中鹿之助	85	中之浜	〃9	渡辺コト	89	河内
〃10	岩見久松	85	豊之浦	〃10	樫尾シン	88	加周
〃11	浪下福松	85	須賀	〃11	高橋セイ	88	古屋敷
〃12	中元若松	85	仁田之浜	〃12	井上トミ	87	豊之浦
〃13	宇高高次郎	84	湊浦	〃13	鳥津イセキ	87	鳥津
〃14	泉熊一	84	川永田二	〃14	川内ハツノ	87	向
〃15	宮本作右エ門	84	亀浦	〃15	佐々木サノ	87	湊浦
〃16	木戸源太郎	84	河内	〃16	高橋フジエ	87	田之浦
〃17	井田与之平	84	須賀	〃17	古田夕子	87	田之浦
〃18	浜本要助	84	加周	〃18	清水シケ	87	奥
〃19	田村市左エ門	84	畑	〃19			
〃20	上田徳蔵	84	豊之浦	〃20			

満年齢で男子が84歳、女子は87歳までに達した人をのせました。

心のこもる その一言だけ でもかけましょう

ちょっと一言

百歳健康めざす

大浜老人クラブ会長　木戸　将

おぎゃと生れて六十六年。明治に生まれて大正、昭和と三代にわたって生きてきた私の足跡を振り返ってみました。

ただ漫然として二十年は夢の如く過ぎ去り、昭和の初期はたいへん不況時代でした。

当時、伊方村大浜は養蚕が盛んで全国でも横綱級の大生産地として名をはせており、また、芋麦などの食糧増産に努力しました。

その時代には近代的な機械化はしておらず、「オイコ」を背中に背負い段々畑での仕事は、実に重労働でした。若い時は二度ないと思い粉骨砕身働いたものです。

その後、みかん栽培に切替えてみかん農業に専念して現在にいたっています。その間、世相の波は何時も平穏無事ではなく、風雨もあれば凪も有り、台風もきたし、多くの難局に直面しました。こうした難関を突破するには、勇気、決心が必要でした。

私は将来のことを考え「生きがいある人生」とは、まず、健康が第一であると思います。自分の体は自分が守り、万事に適度を守ることが肝要であると存じます。

"百歳健康"をめざして、将来を楽しみ、幸福な余生をおくりたいと思っています。

それには、やはり物ごとにくよくよこだわらず、おおらかな気持ちで、毎日の生活を規則正しく過ごすことが何より大切だと思います。

また、私は若い気持ちでがんばらなくてはと思っています。とは言うものの老年になれば無理な仕事はできず、元気なのは口ばかりです。

まだまだ、私は若い気持ちで

集団検診で早期発見を

（胃・婦人・ガン）

がんにかかれば死ぬものとされたのは昔のことです。

いまでは、がんも治すことができるようになりました。

医学の進歩によってレントゲン検査や顕微鏡検査など特別な方法で、自分では健康体であると思っているあいだにがんにかかっていることを発見してもらい、治療を受ければ不治の病とされていたがんも治るようになりました。

みなさんが普通病気とは、腹が痛いとか、熱がするなど、どこか体の調子が悪くなったことをいい、そのような症状がでてから医者にかかっていますが、がんの場合には、自分で悪いと思う時期まで放っておきますと手遅れになることが多いのです。

がんは早く発見するほど治る率が高い

がんの初期は普通自覚症状がないので発見が遅れがちですが、発見が早いほど、治る率は高いのです。

壮年期に多い

壮年期にはがんでなくなる人が最も多く、壮年期の死亡者のうち三人に一人はがんでなくなっています。

そのうちの約半数は胃がんがしめており、ついで子宮がんが多いのです。

そこで町では、胃がんや子宮がんを早期に発見するために、健康体と思える人を対象として、つぎの年齢に達した人、または、医師が必要と認めた人の集団検診を行なっています。

◎胃の検診＝三十五歳以上の男女

検診料は無料です。

◎婦人の検診＝三十歳以上の人

検診料は無料です。

◎胃の集団検診日程

八月二十二日から十一日間

胃の集団検診車は、加周、九町、豊之浦、川永田、湊浦、有寿来、水ケ浦、大浜の各地区に入ります。

◎婦人検診の日程

九月十一日から四日間

胃、婦人検診いずれも受診希望者の受付けを行なっていますので役場生活環境課、または、町見支所へ申込みください。

がんの早期発見のためには、少なくとも毎年一回は定期検診を受けましょう。

歯科診療所を新築

診察開始の場所を検討中です

待望の歯科診療所が新築されるはこびとなりました。

新築される歯科診療所は建物の建築工事費が二千八百四十九万円、医療機器の購入費五百四十二万円（最終的には約一千二百万円程度機器購入費が必要です）、設計監理委託料九十九万円で総事業費三千四百九十万円を投下して建設するものです。

建物は鉄筋コンクリート二階建で延面積二百四十五平方メートルを有し、一階には待合室、診療室、技工室、休養室、一階については冷暖房つきの近代施設が設備されます。

二階は医師の住居になります。

現在の歯科診療所は、ことしの三月まで野沢歯科医師が診療にあたられていましたが、大洲市で新らしく開業なられた関係上、閉鎖されたままになっていました。

その間、町民のみなさんからは「歯医者はまだとんのか」「何んとかせぬか」等、歯科診療所の開設を早急に望む声が多く、町としても一日でも早く開設するべく、西宇和歯科医師会や八幡浜医師会を通じ医師の勧奨を強力に働きかける一方、関係機関へもお願いするなど、医師さがしに東奔西走し懸命の努力をしてまいりました。

その結果、このたび予都宮西宇和歯科医師会長、小川八幡浜医師会長の献身的なお世話により、現在保内町川之石で歯科医を開業されている菅川明医師が診療所にきていただくことになりました。

このことは宇都宮、小川両会長のご尽力と菅川医師の好意によるものと、関係者深く感謝しています。

新築される診療所の完成は明年二月頃の予定です。

しかし、新診療所が完成するまでには約六カ月の期間が必要です。これでは町民のみなさんが困ることを考慮して、町ではさっそく菅川医師と相談し、機械器具の早期購入や、一時的な期間診療する場所の決定などを行ない、一日でもやく診療できるよう話し合いを進めています。

町内には歯の治療を急ぐ人も多くあろうかと思います。診療できる三つの間、不便でお困りのことかと思いますが、何分よろしくお願いします。

また、この診療所を新築することによって八月十九日開かれました第五十二回臨時町議会で歯科診療所設置条例の制定、歯科診療所特別会計条例の制定などが上程され原案どおり可決されました。

納涼盆踊大会

ことしも納涼盆踊大会が8月16日伊方小学校で多数の人が参加し開催され楽しい一夜をすごしました。成績はつぎのとおりです。

1位　淡浦　2位　仁田之浜　3位　川永田

明年はあなたも是非参加を！

保育ノート

心くばり

加周保育所　所長　上島多栄子

おひなまつりの近い三月頃のこと。

保育所では、子どもたちがおひなさまの製作で一生懸命です。

空箱、空瓶、廃用紙、色紙等、いろいろな素材を使っての創意工夫。明日はいよいよ着物を着せて出来あがり。

そのなか中に暗の気にかかる一人の子どもがいました。

「Aちゃん、咳がひどいなあ」

「もしかしたら、明日はお休みせんといけんかも知れんなあ、ほんのちょっぴりの心くばりがあれば……」

Aちゃんおれみんなも、先生がおひなさまには着物を着せておいてあげるけすな」

「うん」

やはりその夜、Aちゃんは熱がでて保育所をお休みしました。

その数日後、Aちゃんのお母さん「先生、先日は子どもが、先生がおひなさまには着物を着せておいてあげるいうたけん、といって安心して休んでいました。ほんとうにありがとうございました」

ほんのちょっぴりの心くばりが興気の子どもを安心させ、そのお母さんをこんなに喜ばせることができたのか……と、保母さんもまた、たいへん感激しておりました。

その保母さんにとっては、得がたい貴重な経験であったと思います。

私たち保育者にとって、ひとりひとりの子どもたちへの配慮が、どのように子どもに受けとめられ、どのような反応を示すか、ということが最も大切なことであり、また、理解しにくいことなのです。

どんな組かなとどこにも、心のあるのだというのとでは、子どもの心を打つ度合が違ってくるのではないでしょうか。

郡町村職員球技大会

野球チームが初優勝

第二十一回西宇和郡町村職員球技大会（野球、ソフトボール）＝主催西宇和郡町村会＝が八月四日保内町で開催されました。

野球が青石中学校、ソフトボールは川之石高等学校の二会場にわかれて行なわれ、野球で町役場チームが初優勝に輝きました。（写真）

当日は郡内五町の役場チームがそれぞれの種目に参加し熱戦を展開。町野球チームは、まず瀬戸町チームに七対六の大接戦で勝ち、優勝戦は三崎町チームと対戦、試合は優勝戦にふさわしい逆転につぐ逆転で延長戦となり、延長九回チームワークのよさで六対五のスコアーをもって勝利を手中にしました。

この大会は、県の町村商工会青年部が年一回、県下の青年部間の交流、親睦をはかるため実施しているものです。

本町の商工会チームは、まず、中山町商工会チームと対戦し、これを十対五の大差で破り、ついで三芳町商工会チームを三対〇でくだし勝利をおさめました。

優勝戦は南予同志の対決となり城川町商工会チームを相手に四対〇で破り堂々の成績で優勝しました。

三試合を通して三本のホームランがでるなど好調な打撃陣にくわえ、三好良治投手が尻上がりに調子をだし、二試合連続完封というすばらしい投球でした。

なお、個人賞として、最優秀選手賞に高月満喜選手（塩浦）、優秀投手賞に三好良治投手（小中浦）がそれぞれ選ばれトロフィーが贈られました。

商工会チーム県一に

（第六回県商工会（ソフトボール大会）

第六回愛媛県商工会青年部主催のソフトボール大会は八月四日本町の伊方中学校、町見中学校の両会場で行なわれました。

東、中、南予の三ブロックから勝ち進んできた強豪八チームによって試合が行なわれ、本町の商工会チームが見事優勝の栄冠に輝き

職業訓練生の募集

松山専修職業訓練校では八幡浜地区で九月から左官科の職業訓練を実施することになりました。

この訓練は転職または、再就職を希望する人で左官の知識、技能を身につけて就職しようと思っておられる方であれば無料で訓練を受けることができます。

八幡浜公共職業安定所にご相談のうえ応募手続きを取られるようおすすめします。

○訓練科目＝左官科

○訓練期間＝九月より三カ月間

○場所＝八幡浜市駅前　八幡浜建設業協同組合　高等職業訓練校内

○特典＝失業保険金受給資格者は訓練期間中継続して失業保険金が支給されます。

また、一般の方で公共職業安定所長の指示により訓練を受ける場合には訓練手当（月額三一、五〇〇円）三六、〇〇〇円程度）が支給されます。

＝お礼＝

大阪市下小坂一四六の六にお住いで田上工務店（修）を経営されている田上隆一氏（仁田之浜出身）より一万円。

宮崎県日向市本町一四の一五にお住いでマルミヤ本店を経営されている宮本義氏（亀浦出身）より一万円。

兵庫県西宮市浜甲子園団地十二の五〇一にお住いの菊池尚雄氏（久保出身）より三千円。

福岡市西区昭代二丁目二一一三にお住いの西野守正氏（中浦出身）より三千円。

それぞれ広報編集の費用にと寄付いただきました。

紙上より厚くお礼申し上げますとともに、ご健康と活躍をお祈り申し上げます。

＝巡回交通事故相談所の開催＝

9月17日（火）　保内町中央公民館1階講義室　午前10時～午後4時まで

相談に応じる人

県交通事故相談所の相談員、弁護士、調停協会の調停委員、県内各損害保険会社の相談員

賠償問題、保険金の請求方法、示談の仕方などでお困りの方はお気軽に相談所へ。

専門の相談員が無料で指導、助言にあたります。

＝秋の全国交通安全運動＝

9月21日（土）から9月30日（月）までの10日間

運動の重点目標

◎歩行者事故　特に子どもと老人の交通事故防止

◎自転車の事故防止

交通事故の恐ろしさは、誰もが知っています。しかし事故はなかなか減少しません。なぜでしょう。

みんなで考えてみましょう。正しい交通ルールを身につけ、交通事故のない明るい毎日にしたいものです。

人

昭和49年7月末現在
世帯数 2,464戸（＋2戸）
人口 8,990人（男4,290人（＋11人）（＋18人）女4,700人（＋7人））

えんむすび

昭和49年7月1日～7月31日

お誕生おめでとう

昭和49年7月1日～7月31日

おくやみ

昭和49年7月1日～7月31日

編集後記

一般会計が一億三千四百四十七万円補正され、十億円の大台にのりました。この中には町見中プール建設費が含まれています。

昭和四十八年度の水道会計決算ができましたので、この機会をとらえ、その経営状況をみてみましたので参考にされ、節水にご協力を／ことしも「敬老の日」がもうすぐです。現世のためにつくしたおとしよりを大切にしましょう。

待望の歯科診療所が新築されます。完成までの間、臨時の診療場所、時期は交渉中です。（Y・O）